教育委員会だより
もおか
第９号
令和６年８月発行

編集/発行：真岡市教育委員会学校教育課教育政策係
TEL：0285-81-9052　FAX：0285-83-4070
〒321-4395
栃木県真岡市荒町5191番地

★次号「教育委員会だより第１０号」は
１２月発行予定です

目次

P1 子育てコラム
P2 ICT支援員のおしごと
真岡市の文化財
P3 遊び、学び、鍛えよう
真岡市自然教育センター
P4 学校紹介（亀山小学校）
学校における働き方改革

～子育てコラム～

育てることは育つこと 教えることは学ぶこと

子どもを真ん中に

真岡市心理相談員
圓谷　公美恵先生

多様なあり方が認められる現代、生きやすくなったとも言えますが、「こうしていれば間違いない」という絶対的な価値観を失い、どのように子どもを育てればよいのか、迷ったり苦しくなったりすることが多くなったようにも思います。

◇学校は行かなくてはいけないの？
「行きたくない」と泣く子を前に、背中を押してあげるべきなのか。そっと抱きしめてあげるべきなのか。
◇叱っちゃいけない。じゃあ、どうすればいいの？
子育てをしていれば、感情的に怒鳴りたいことなんてしょっちゅう。
頭ごなしに怒ってしまうことだってあります。危ないことをしていれば、思わず腕を強く引いてしまうこともあります。

子どもは一人一人違います。多様性×千差万別。個性を尊重し主体性を大切にするためには、一人一人オーダーメイドの方法が必要なのです。「子どもが真ん中」とはどういうことなのか、考えてみたいと思います。

小学校2年生のKちゃん。近所に転校してきた少し大人びた女の子と友達になり嬉しくてたまりません。
友達は、Kちゃんにいろいろなことを教えてくれました。おばけがどんな所にいて、どうしたら見ることができるか。習い事の公文で、どうしたらズルをしてスタンプをたくさん集めることができるかなど。Kちゃんは、教えてもらった通りに行動しました。
ある日、「学校のトイレにおばけがいるよ。このことは、誰にも言っちゃダメ。誰かに言ったら、夜、枕元におばけがきて、殺されちゃうよ。」と言われました。怖がり屋のKちゃんはパニックになりました。「ここのトイレはダメ！あそこもダメ？あっちは？ダメだ！どこのトイレにも、おばけがいる…」Kちゃんは、ずっとトイレを我慢し続けました。5時間目の音楽の時、ついに我慢ができなくなり、合唱の最中におもらしをしてしまいました。先生は、「水がこぼれていたのね。」と、その場をおさめてくれましたが、後から「２年生にもなって」と叱り、自分で始末するよう言いました。ぞうきんを用意しながら、恥ずかしくて泣きそうでした。音楽室に戻ると、男の子が身をかがめて床のにおいを嗅いでいました。Kちゃんは、目の前が真っ暗になり胸がはちきれそうでした。でも、家でも学校でも本当のことは誰にも言えませんでした。
だって、約束を破ったらおばけに殺されちゃうから。

これは私の体験談です。両親も先生も、私の行動の裏にある本当の理由、友達のささやきに気づいてはいませんでした。いつの間にか、「ズルをする悪い子」「２年生にもなってもおもらしする子」「何を聞いてもはっきり話ができない子」になってしまった私の悲しさは、誰にも気づいてもらえなかったのです。

相談員としてお子さんたちと面接する時、私は、かつての自分を思い出します。今、目の前にいるのは、語ることができずに、苦しい気持ちを抱えている子なのかもしれない。もしかしたら、「本当のこと」は語られていないかもしれないと。子どもの本当の気持ちに寄り添い、子育てを通して私達大人も、共に学び成長していきたいものです。
ご相談やご質問がありましたら、お気軽にお声掛けください。

学校ICTの専門家

ICT支援員のお・し・ご・と

ICT支援員は、学校において授業支援、校務支援、環境整備、校内研修等の支援業務を行っています。次代を担う児童生徒を育成する、これからの学びを実現するために不可欠な存在です。GIGAスクール構想により１人１台端末が配備され、端末等のICTを活用した授業改善には、学校ICTの専門家であるICT支援員の支援が必要となります。真岡市では６名のICT支援員が各校に配置され、活躍しています。

授業での支援

授業準備の支援から、ICT活用方法の提案まで行い、ICTを活用した授業がスムーズに行えるようにしています。

授業では、児童生徒への支援や情報機器の操作などを先生と協力して行っています。

ＩＣＴ支援員

真岡市の子どもたちは、ＩＣＴに対する興味関心が高いです。児童生徒の皆さんが楽しくうれしい顔をする授業になるよう、先生方に寄り添って支援しています。

先生

ＩＣＴ支援員さんが、ＩＣＴを使った授業準備も簡単にできるようにしてくれるので、気持ちに余裕が生まれます。授業以外でも、ＩＣＴに関する相談ができるので助かっています。

校務での支援

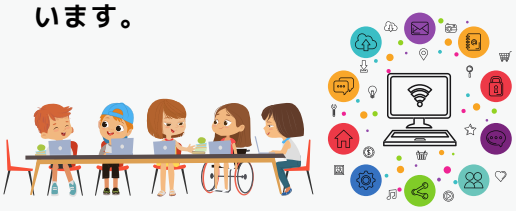
アンケートの作成、分析方法など、ICTを活用した校務のサポートをしています。

教員研修の支援

先生向け校内研修の講師も務めています。

環境整備

機器管理やアプリケーションの年度更新作業など、先生にとって負担の大きい作業を支援しています。



―真岡市の文化財―　NO.6

弥生(やよい)時代：新しい時代の輝き

弥生時代は、米づくりや鉄器、青銅品など、大陸から新しい技術や文化が伝わり広まる時代です。真岡市など栃木県は、弥生時代後期（紀元0年～300年頃）に弥生文化が広まったと考えられており、市内でも住居跡が見つかっています。寺久保遺跡の竪穴住居からは栃木県内でも珍しい弥生時代のガラス小玉が出土しています。お米の白い輝きとガラスの神秘的な輝き。真岡の弥生時代人は、その輝きの中に新しい時代の到来を感じたかもしれません。

寺久保遺跡出土のガラス小玉
（真岡市指定文化財）
栃木県立博物館常設展示中
（画像提供：栃木県立博物館）

真岡市教育委員会 文化課文化財係 0285-83-7735

遊び、学び、鍛えよう

真岡市自然教育センター・老人研修センター

真岡市自然教育センターは、児童生徒が鬼怒川流域の豊かな自然環境の中で、人とのふれあい、自然とのふれあいを深め、心豊かでたくましく生きられるようになることを目指して設置されました。入所する各小・中学校のねらいに応じて、様々な体験活動を展開しています。

また、高齢者の生きがいづくりの場として老人研修センターも併設されています。２つのセンターが併設された強みを生かし、以下のような取組を行っています。

自然教室

市内の小学３・４・６年生、中学１・２年生を対象に宿泊学習を行っています。陶芸、焼き板などの創作活動やカレー、うどんなどの炊さん活動を中心に約８０の活動があります。学校や家庭、地域などでは体験することが難しくなりつつある野外での活動（いかだ、アスレチック、鬼怒川での本流遊びなど）も取り入れています。

竹食器でカレー

いかだ遊び

アスレチック遊び

高齢者研修

高齢者の皆様の健康増進と生きがいづくりを目指して、グラウンドゴルフなどのスポーツ活動、切り絵やちぎり絵などの創作活動、交通安全や消費生活に関する講話など多様な活動を組み合わせて、研修を実施しています。市内の老人クラブを２０ブロックに分け、各地区年間５回ずつ、合計１００回の研修を行っています。

児童生徒と高齢者の交流

当センターの中心となる活動です。小学４年生以上が入所した際、児童生徒と高齢者の交流を図るために行っています。

同じ地域に居住する子どもたちと高齢者が炊さん活動や創作活動、スポーツ活動などに一緒に取り組み、お互いに理解を深められるようにしています。子どもたちも高齢者も楽しみにしている活動です。

その他の取組　「活動指導ボランティア研修会・体験教室」

新しい活動や様々な創作活動の指導者を養成するために、ボランティア研修会を開催しています。開催時には、「ウィークリーニュースもおか」やチラシ等でお知らせしています。

ボランティアに興味のある方は、お問い合せください。（電話　０２８５-８３-１２７７）

ライブリー教室との共催で年３回体験教室を行っています。児童生徒の皆さんが様々な体験を通して、達成感や満足感を味わえるように活動内容を工夫しています。今年度は、「埴輪」「ペーパークラフト」「ピザ」作りを行います。

学校紹介⑦

★次回は中村中学校です

亀山小学校

ー　教育目標　ー
かしこく　　自ら考え進んで学ぶ子
やさしく　　思いやりがあり心豊かな子
たくましく　健康で気力にあふれた子

亀山小のHP

学校開校の頃（昭和60年）

亀山小学校は、「笑顔があふれる学校」「顔晴（がんば）れる児童と教職員」を目指し、教育活動を実践しています。地域とともにある学校づくりの推進に向け、保護者や地域ボランティア「丸亀会」の協力のもと、学校行事や環境整備、地域人材を活用した授業など、様々な場面で地域の教育力が発揮されています。亀山区主催の運動会や敬老会にも、多くの児童が参加し交流を深めています。昨年度初開催した「亀山マルシェ」は、児童が主体となって企画・運営し、学校で育てた野菜を販売したり、学年ごとにアトラクションを行ったりして、学校と地域の交流の場として盛り上がりました。縦割り班でのなかよしタイムや図書委員による読み聞かせなど、異学年の交流も積極的に取り入れ、全校児童が仲良く遊んだり協力して活動したりしています。

農業体験（田植え）

水泳の授業

小鳥の森清掃

小学校運動会

１・２年生学校探検

卒業生による音楽鑑賞会

亀山マルシェ

図書委員による読み聞かせ

ー学校における働き方改革を推進しています－

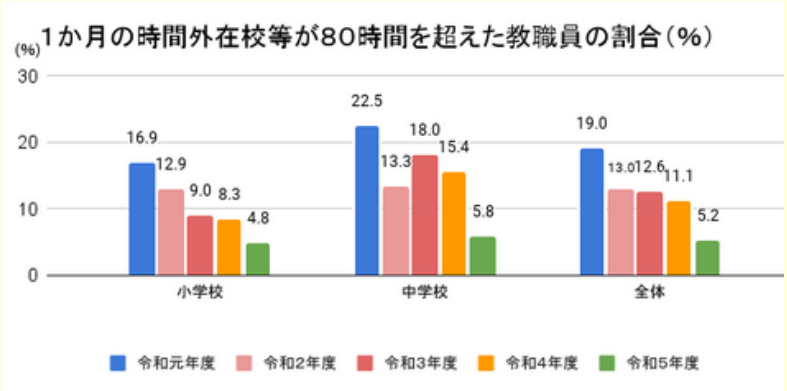
真岡市の学校における
働き方改革はこちら

真岡市の学校における働き方改革推進プラン（第２期）
中間目標達成の最終年度

「学校における働き方改革推進プラン（第２期）」では、中間目標として令和６年度までに時間外勤務が１か月で８０時間を超える教職員の割合を０％にすることを策定しています。

令和５年度は、大幅に減少しましたが、該当する教職員がまだ一定数いる状況です。

今後も、子どもと教員が向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進していきます。



もう一歩努力するこころ　おもいやりのこころ　かんじ、考え、学ぼうとするこころ

バックナンバー

皆様のご意見、ご感想をお寄せください
アンケートはこちらから！

つむらや　くみえ